

宮本たかし 県政 NEWS

のしく しこく つかりと

宮本 たかしを育てる会

〒915-0876 越前市白崎町73-1-3 3F
電話 0778-22-6633
ファックス



Vol.06

2010新年号

宮本たかしから新年のご挨拶

新年 明けましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては健やかにて新しい年をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。昨年を表わす漢字は「新」ということでしたが、新しい動きがある時というのは往々にして混乱を迎えるもので、政治経済共に非常に厳しい状況となっています。県内の事業者や住民の方々に少しでも良い経済環境をということで県政を通して日夜努力しているつもりではありますが、なかなか打開策も見出せず大変申し訳なく感じております。

こんな時期こそ気持ちで負けないということが大事だと思いますので、皆さまにおかれましては地域活動などを通じて「元氣」でめげずに新年に向けご尽力賜りたいと考えております。

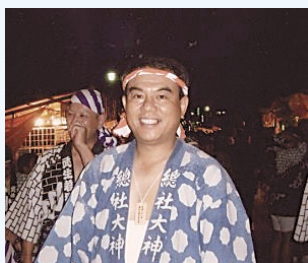
今年は私にとりまして、来るべき時に向けていよいよ動き出す年となります。今後とも引き続きご支援のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。



トピックス

ここでは、平成21年秋から現在までの宮本俊の活動を紹介します。

☆総社大神宮のおみこし参加



今回、私が担当したのは実際にかつぎ役ではなく、棒頭(ぼうがしら)と言って、かつぎ手と向かい合う形でおみこしの前後に渡った棒の一番先頭に陣取り、その棒を押さえつつ進行方向に後ろ向きで巡航するというものです。そして、かつぎ手の先頭の方に合図を送り、抜けていただくのがその役割です。かつがないから楽だなと思ったのは大間違い。すごい勢いで進行してくるおみこしを前傾姿勢で制止しつつ後ろ向きに歩くのは結構至難の技で、ふくらはぎはパンパン。これならかついでた方が楽だったというのが正直な感想です。こう書いてはいるものの、筋肉痛が出たのは1日置いてから……。年を取るとすぐに出ないって聞きますし、ちょっとショックでした。

☆福井経済同友会との意見交換会



私もメンバーの一人であります福井経済同友会の役員の皆様と県政に関する意見交換会が開催されました。当日は若手議員8名が増田代表幹事を始めとする9名の同友会役員会の方々と「北陸新幹線」「エネルギー拠点化計画」の二つのテーマについて熱い議論がなされました。

経済人ならではの視点で現在の県政について課題と認識されている点なども、忌憚のないご意見が伺うことができ非常にいい会合が持てたと考えています。

☆フェンシング国体入賞祝賀会



福井県フェンシング協会の主催で第64回国民体育大会(新潟)フェンシング競技にて成年男子フルーレで3位、エペで2位に堂々入賞を果たした坂野、見延、前川、3選手の活躍を祝うべく祝賀会が開催されました。フェンシングは太田選手のオリンピックでの活躍で脚光を浴びたものの、正直言ってまだまだマイナーなスポーツです。協会の会長をさせて頂いている私としては、彼らの活躍は誇らしく我が事の様に嬉しく思った次第です。

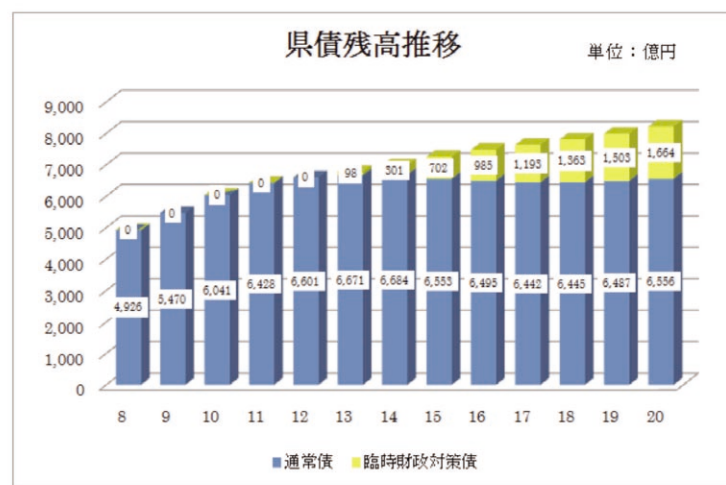
<県政メモ～その1 県債残高について>

このコーナーでは一般県民の方々をご存知のようであり知られていないと思われる県政の諸課題について自分の解説をもとに記載させていただきます。第一回目の今回は福井県の県債残高についてです。

県債とは福井県の債券、つまり借金なのですが、国債とは違い一般には流通はしておらず、そのほとんどが縁故債と言われ地方銀行など金融機関に買い入れて頂いています（最近になり僅かですが市場公募債という形で全国の投資家に売られるケースも出てきています）。さて、現在の福井県の県債残高はどれくらいかとご存知でしょうか。下のグラフが過去の県債の残高の推移ですが平成20年度末において臨時財政対策債を含め約8200億円となっています。県の財政規模が約4600億ですので、その大きさがご理解いただけたと思います。売上4600万円の企業が8200万円の負債を抱えているのと同じ状況です。臨時財政対策債とは最近になって発行された債券でこの部分については交付税措置、つまり元利金支払いを後で国が面倒を見てくれるというのですが、

お金を色が付いているわけではないので地方交付税全体が削減されている中、県債返済分が確保されても他で削られれば全体としての地方負担は増加することになり安穩とはしてはいられないと感じています。

このような環境下、重要なのが行財政改革というわけですが、現政府の子ども手当の部分的な地方負担など地方へのしわ寄せの議論が出ている中、地方への財源確保が行政のコスト削減と共に大きな課題となってきます。



<一般質問>

先の12月議会での質問について簡単に記載いたします。

☆特別支援教育について

各種障害のため一般の授業を受けるには問題がある児童生徒のために行われるのが特別支援教育です。南越養護学校のような特別支援学校や各学校の特別支援学級がこれにあたります。県内小中学校283校中、108校において特別支援学級が未設置だがどれくらいのレベルまで設置されれば十分なレベルと言えるのか、また、高校における特別支援教育をどのように考えているかについて教育長に質しました。残念ながら設置のレベルについては明確な答弁を得られず、別の機会に質問していきたいと思っています。高校での特別支援教育においては県としても課題として認識しているとのことですので今後、具体的な方策を考えていきたいとの前向きな答弁を頂きました。



☆廃棄物行政について

廃棄物のリサイクルについて産業育成という観点から質問いたしました。県ではリサイクル技術の開発について工業技術センターなどが担当し、数件ながら研究案件も現在進行しているようです。しかし、その技術で県内経済にどれくらいの寄与度があるか、つまり産業として市場を意識しているかについては大きな疑問があると感じています。この点について、比較的うまくいっていると感じている「福岡県リサイクル総合研究センター」の実例を引き合いに出し厳しく質しました。県における技術開発については、廃棄物のリサイクルのみならず、製造業における加工技術や素材に関する研究においてもいわゆる研究のための研究に終始しており、企業の利益につながるかという産業育成の観点からは満足のものではないというイメージをつよく持っていますので、この点については自分のライフワークとして今後ともしっかりとフォローしてゆきたいと考えています。

☆先生悩み解決サイトについて

教室と言う隔絶された空間で一人悩みの相談もできずにつらい立場にいらっしゃる先生のために、全国の先生方が相互に利用できる相談サイトの県主導での設置の可能性について質しました。現在、県では新任教師のためにこういったサイトを設置しているようですので、それを拡大運用できないかという点を含めその動向についてフォローしてまいります。